

ワークショップ第2回を振り返って < 小学校 >

学校での取組について（学習・体育）

・子どもたちにはいろんな経験をさせることが大切というのが、様々な意見に共通している点。普段とは異なる環境でいろんな人たちとコミュニケーションし、それを通してさまざまな感情を抱く、成功や失敗の体験をする、そういった経験がこれから人生を過ごし、社会生活を営んでいく上での基礎となり重要。

- ・小学校では、はぐくみネット事業を中心に通信（だより）の発行や、図書ボランティアやサマーフェスティバルの開催など活発に活動
- ・学習については、英語学習に対する関心が高く、さらに子どもたちが英語に慣れ親しみ、活用し異なる文化の人たちとコミュニケーションしていくグローバル人材の育成に力を入れていくことが必要といったご意見があった。
- ・また、座学だけでなく、体力の向上も必要だし、自然体験や仲間との共同作業などいろんな体験を通して心の教育ともいうべき情操教育も必要だというご意見も。
- ・学年縦割りの活動や小中学校の合同行事、中学校下間の学校同士での活動など普段の学校生活とは異なる環境での子ども同士の交流が行われている学校もあり、参加者の評価も高かった。今後はさらに、幼稚園や保育所との交流や、小学校と中学校のさらなる連携の強化による中1ギャップの解消をめざしていくべきなどの意見もあった。

地域と連携した取組について

・小学校については、教育コミュニティが根付き、いろんな立場の方が思い入れをもって学校に関心を持ち、保護者や学校だけでなく、地域全体で子どもたちを育てていただいている状況。

- ・どの地域も非常に多種多様でたくさんの活動を行っていただいている。
- ・中でも、見守り活動などはほとんどの学校で毎日行っていており、犯罪抑止、交通安全をはじめ、子どもたちにとっても地域のみなさんに守られているという安心感を持って過ごせるという効果があがっている。
- ・地域の避難収容所に指定されていることもあり、近年防災活動に対する意識の高まりとともに、小学校においても防災訓練などの形で地域との連携が進んできている。
- ・夏祭りやもちつき大会など地域とのふれあいを深める行事などが大変多く、また地域の施設との交流、ボランティアなど地域人材もたくさん活躍していただいている。

- ・急激な社会変化とともに子どもたちを取り巻く状況もめまぐるしく変化する中で、将来を担う子どもたちには多様な学びや体験、コミュニケーションの機会を提供するなど「生きる力」を育てることが重要だが、学校だけでは実現が難しい。
- ・学校・家庭・地域総がかりで、包括的、継続的に子どもたちを守り育てていく教育コミュニティの役割は重要。